

AIRITY

MANUAL



AIRITY

[INDEX]

008 **STORY**

018 この軽さ革新的。この強さ確信的。**AIRITY**

020 **AIRITY TECHNOLOGY**

024 AIRDRIVE DESIGN

026 AIRDRIVE ROTOR

028 AIRDRIVE BAIL

030 AIRDRIVE SPOOL

032 AIRDRIVE SHAFT

034 ATD TYPE-L / TWIST BUSTER III / LC-ABS

038 MONOCOQUE BODY

040 FULL METAL BODY

041 TOUGH DIGIGEAR

042 MAGSEALED

044 AIRITY SPEC



この軽さ、革新的。
この強さ、確信的。

AIRITY



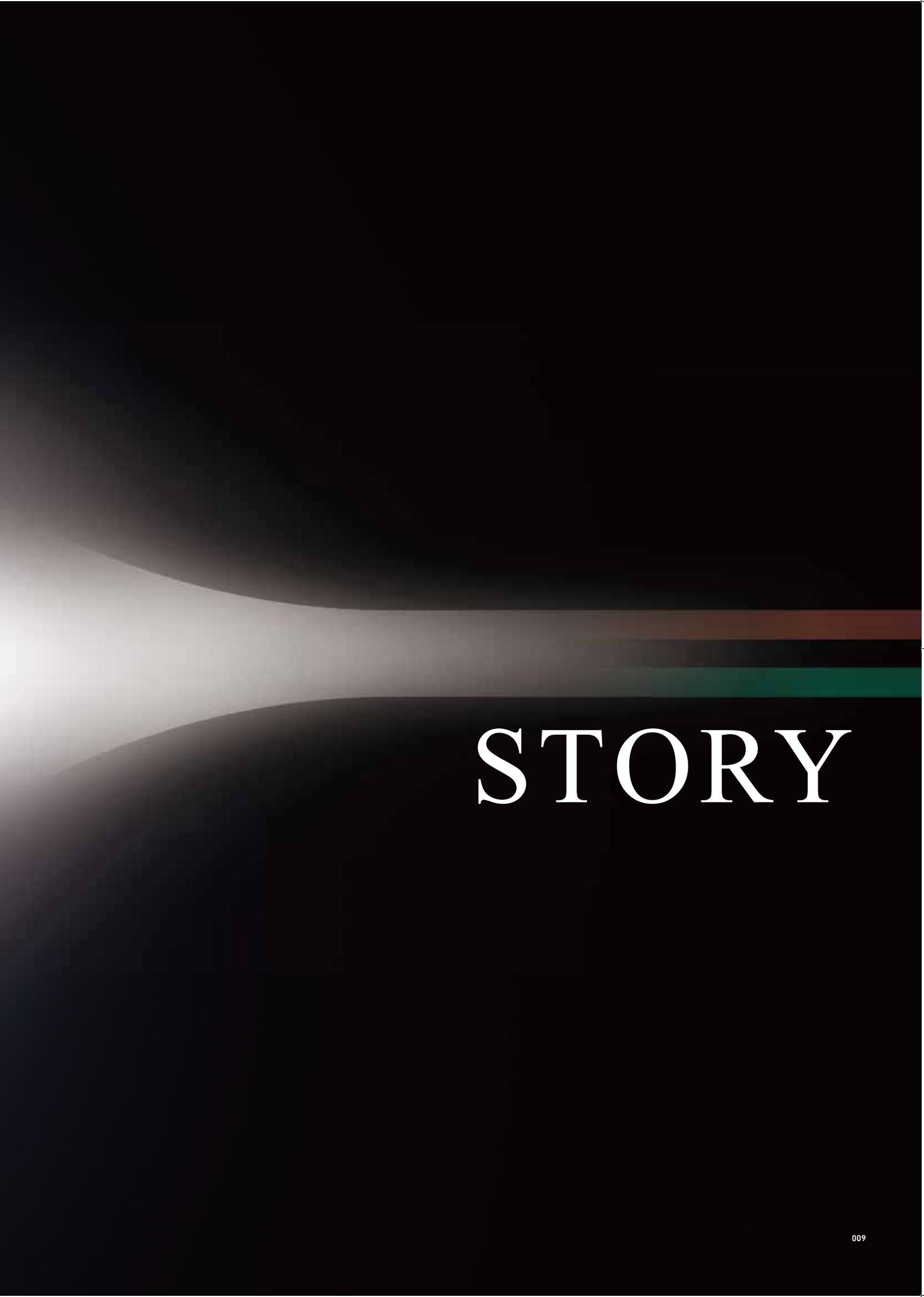






MAGSEALED

AIRITY



STORY



心から釣りを愉しんでもらうために。

AIRDRIVE

AIRITY

できるだけリールやロッドの操作性が上がるようにしたい。

できるだけキャスト精度が高まるようにしたい。

できるだけ水中の情報を手元に伝えられるようにしたい。

できるだけ軽量リグを遠くまで飛ばせるようにしたい。

できるだけ釣り向き合っているときの集中力を高められるようにしたい。

そのひとつの答えが、軽さでした。

釣り人の「もっと楽しい」を想像したときに、

出てきたひとつの答えが、軽さでした。

そのために、ダイワは20年以上も前から、リールの軽量化に取り組んできました。



真の軽さを



2001

TOURNAMENT AIRITY

業界初のソルト対応マグネシウムボディ搭載の超軽量スピニングリールとして、2001年にデビュー。20年前当時、高剛性メタルボディにして1500番で200gを切る自重は、大きな話題を呼んだ。「パワーコンセプト」のトーナメント・フォースと対になる「ハンドリングコンセプト」は、その軽さゆえのシャープな操作性によって、港湾部のエギングやシーバス、バスのライトリグやエアトラウトなど、軽量タックルをテクニカルに操る釣りで、広く深く愛好された。AIRITYシリーズの原点となる一台。



ダイワがスピニングリールに軽さを求めたのは'70年代。

マグネシウム合金とカーボングラファイトをいち早くリールに導入し、
軽量化こそが釣りの質を上げるという揺るぎない思想を掲げ、
自重をできるだけ軽くするという飽くなき挑戦を続けてきました。

そして今から約20年前、時代が大きく動きます。

バスフィッシングのプロトーナメントでは「いかに食わせるか」が勝敗を分け、
ハイプレッシャー化の進むフィールドではライトリグ傾向が強まりました。
ソルトでは港湾部のシーバスやエギングなど、操作性を重視する釣りが人気を博し、
さらにトラウトの世界では、1g前後のスプーンの使用を中心とした、

繊細を極めるエリアトーナメントが、各地で花開いた時代でもありました。

まさに時代が求めたのは、ダイワが信念をもって綿々と積み重ねてきた、
釣りの質を上げるための軽量化だったのです。

2001年、そんな時代に呼応するように、ひとつの集大成が、発売となりました。

それまで誰も手にしたことのない、ソルト対応マグネシウムボディを搭載した
超軽量スピニングリール、TOURNAMENT AIRITYです。

「AIR=軽さ」と「REALITY=真実・実用性」を兼ね備えた一台は、
ユーザーに釣りを愉しんでほしいと心から願う、ダイワの志が詰まった、
真に軽く、本質的な、時代が求めたスピニングリールの完成形でした。

釣り人の心を揺さぶり、釣る喜びを深化させる、AIRITYシリーズの誕生です。

強さとの両立を



2021

LUVIAS AIRITY



2021年発売。高剛性フルメタル(Mg製)モノコックボディを搭載し、大口径の超タジュラルミン製MCタフデジギアを格納。剛性と滑らかな回転性能、回転耐久性を両立しながら、LT2500で170gという、当時のダイワ史上最軽量を達成。軽さへのこだわりを追求しながら、強さも手に入れ、20年ぶりにAIRITYの名を冠した記念碑的な一台。

2016年、セルテートHD3500番で初めて世に投げられたモノコックボディは、当初、大型リールの剛性アップとドライブギアの大型化というコンセプトを強調し、ダイワのスピニングリールに、強さの革命をもたらしました。

高剛性の一体成型ボディが、たわみを低減し、それまで宿命だった、巻き上げ時のパワーロスを極限まで解消。

また、ボディとボディカバーを留めるビスを排除したことで、大口径ドライブギアの搭載が可能となったのです。

この技術はまた、ギアサイズに対して可能な限りのコンパクト化・軽量化を図れるという、新たなる効能を生み出しました。

バスフィッシングのパワーフィネスや、ソルトやトラウトシーンにおけるライトスタイルで大物をねらう釣りがムーブメントとなった当時、突き詰められた軽さの中にも強さを欲する声が、リールの進化を促しました。

求められたのは、軽さと強さのハイレベルな両立。

これを実現したのが、2021年に発売となったLUVIAS AIRITY。

DAIWA史上最軽量（当時）という、軽量スピニングリールのフロントランナーは、マグネシウム製モノコックボディに、アルミ製エンジンプレートという、フルメタルの強さをも兼ね備え、新たなる領域へとたどり着いたのです。

釣る喜びのために、さらなる改革を

自重の軽さと強さの両立に到達したその先で、立ち戻ったのは、
一貫して変わることのない、「もっと釣りを愉しんでほしい」というダイワの想い。

釣りにおいて必要なリールの軽さは、自重の軽さだけではありません。
操作感の軽さもまた、釣る喜びにつながる、欠かすことのできない軽さです。
ダイワは数十年前から、ジャイロスピンやエアローターなどで、
この、必要不可欠なもうひとつの軽さを、リールに注ぎ込んできました。
その結実とも言える最先端テクノロジーこそが、エアドライブデザイン。

フロントユニットの軽量化による巻き出しの軽さと、重量バランスの改善により、
ハイレスポンスで高感度なリーリング性能を実現するとともに、
自在なロッドアクションや高精度なキャストビリティなどロッドの操作性も向上させました。

DAIWA史上最軽量。フルメタル（Mg製）モノコックボディ。
軽さと強さを兼ね備え、なおいっそうの、釣る喜びのために。
自重としての軽さと、それを支える強さに加え、
AIRITYのアイデンティティーを受け継ぎ、
操作感の軽さまでも突き詰めた一台が20年以上の時を経て、今、産声を上げました。

—2023年、新生AIRITY、誕生。





この軽さ、革新的。
この強さ、確信的。

AIRITY

かつてない軽さと強さの両立を果たした、超軽量スピニングリール「AIRITY」。その根底にあるのは、心行くまで釣りを愉しんでもらいたいという、ダイワの想い。LT2000で145g、LT2500Sで150gと、自重としての軽さをDAIWA史上最高レベルで到達。同時に、“自重以外の軽さ”も手に入れた。それは、タックルとの一体感が得られる軽快な回転フィールと、持ち重りのない最適な重量バランス。その基幹となるのが、「エアドライブデザイン」。釣り人が求める、意のままにルアーを操作することを追求した次世代スピニングリールの設計思想で、最大4つのテクノロジーで構成される。そのエアドライブデザインをフル装備することで、リール性能とロッドの操作性の向上を高次元で実現。アングラ

操作性を突き詰めた

革新的な軽さ

次世代スピニングリールの設計思想、エアドライブデザインを搭載。

自重の軽さと、巻き感の軽さ、最適な重量バランスによって、軽さは革新的なものとなる。





の意志に対して素直に応える、そのレスポンスが釣る喜びを、ますます高めてくれる。軽さを貫くいっぽうで、強さへのこだわりにも、妥協は一切ない。そこに込められているのは、「十分な実釣強度をとまわらない軽さには意味がない」というダイワのリール設計における原点。その信念を受け継ぐテクノロジーのひとつが、一体成型構造の「モノコックボディ」。スピニングリールの構造上の問題点を解決し、たわみを抑え、強い巻き上げ力を生み出す確かな土台。その素材にはマグネシウムを採用するとともに、エンジンプレートにもアルミを使用することで、フルメタルによる揺るぎない強さを身につけた。その内部に格納されるのは、滑らかに静かな回転を生み出すタフデジギア。ギア硬度を高める特殊表面処理を施すことで、初期性能が長く続くよう、耐久性も向上させている。防水・防塵も万全を期し、ダイワ独自の防水・耐久テクノロジーであるマグシールドを、ピニオン部とラインローラー部に搭載。海水や砂塵にさらされるフィールドでも、安心して釣り向き合う時間を約束してくれる。ドラッグは、ラインへの負荷を低減し、ハイレスポンスでスムーズな滑り出しにより、安心してファイトを愉しめるATD TYPE-Lを搭載。スプールには、リング形状を見直すことで約5%の飛距離アップを実現したLong Cast-ABSを採用など、ダイワテクノロジーの粋を集めた。「AIR＝軽さ」と「REALITY＝真実・実用性」の高次元での融合。高度な実釣性能を備えた超軽量スピニングリール。ライトゲームからロックショアまで、タックルとひとつになれる自由と愉しさを、AIRITYで――。

実用性を研ぎ澄ました 確信的な強さ

マグネシウム製のモノコックボディを採用。

ボディとボディカバーを用いた従来構造とは一線を画す一体成型で、強さは確信的なものとなる。

AIRITY TECHNO

次世代スピニングリールに必要な不可欠な、理想を実現

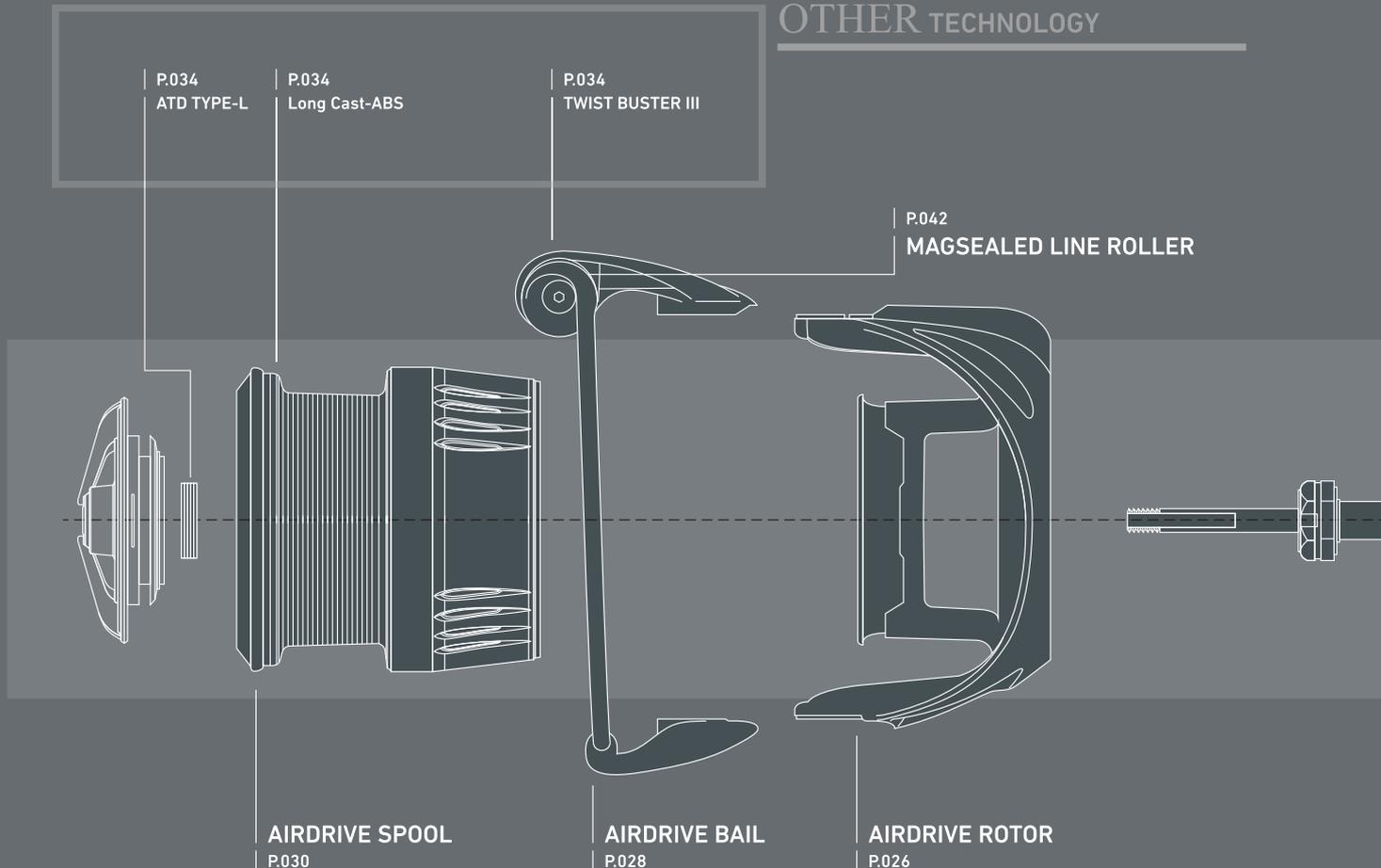
操作性を最大限に引き出すために、軽量化・低慣性化・重量バランスの最適化を目指したFRONT UNIT。

それを下支えるために、高耐久・高剛性・パワフルな巻き上げを追求したBODY UNIT。

AIRITYに課せられた「軽さ」と「強さ」のハイレベルな両立は、革新的なダイワテクノロジーによって実現する。

FRONT UNIT TECHNOLOGY

OTHER TECHNOLOGY



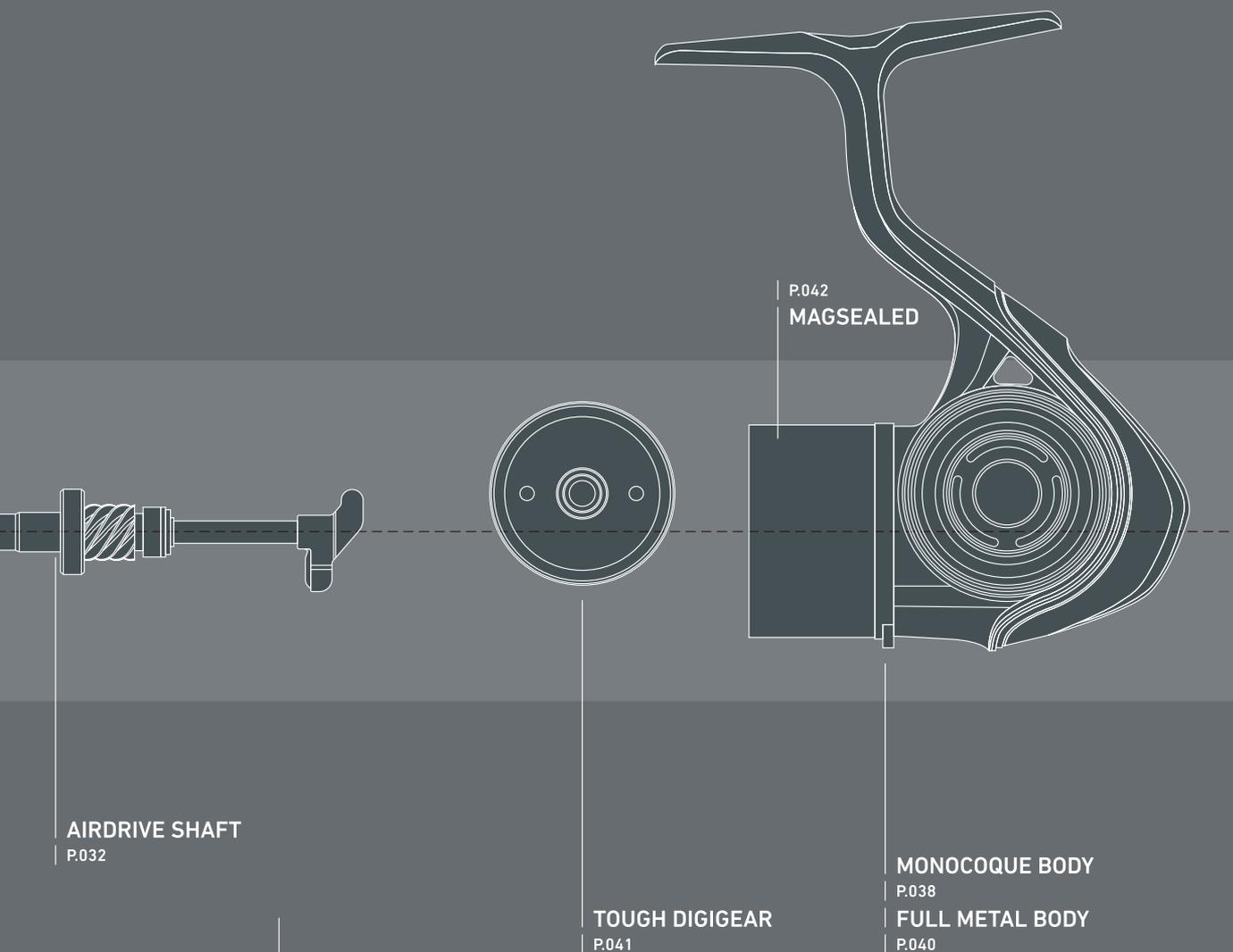
AIRDRIVE DESIGN

| P.022

LOGY

実現するための最先端テクノロジー

BODY UNIT TECHNOLOGY







軽さのために

エアドライブデザインが生み出した新たなる軽さ

エアドライブデザインが、AIRITYに果たした役割はあまりにも大きい。

ダイワスピニングリール史上最軽量を実現 (LT2500Sで150g) するとともに、

フロントユニットの軽量化による巻き出しの軽さと、重量バランスの改善により、

持ち重りが軽減するなど、自重以外の軽さも手に入れた。

リール設計の歴史の中で、軽さを追求しつづけてきたダイワテクノロジーの粋が、

AIRITYには注がれている。

FRONT UNIT

TECHNOLOGY

AIRDRIVE DESIGN

回す、止める、意のままに。

エアドライブデザイン。

巻き出しが軽く、ハイレスポンスな回転を生み出す革新のテクノロジー。

ダイワスピニングリールの新しい未来が、今、回り始める。

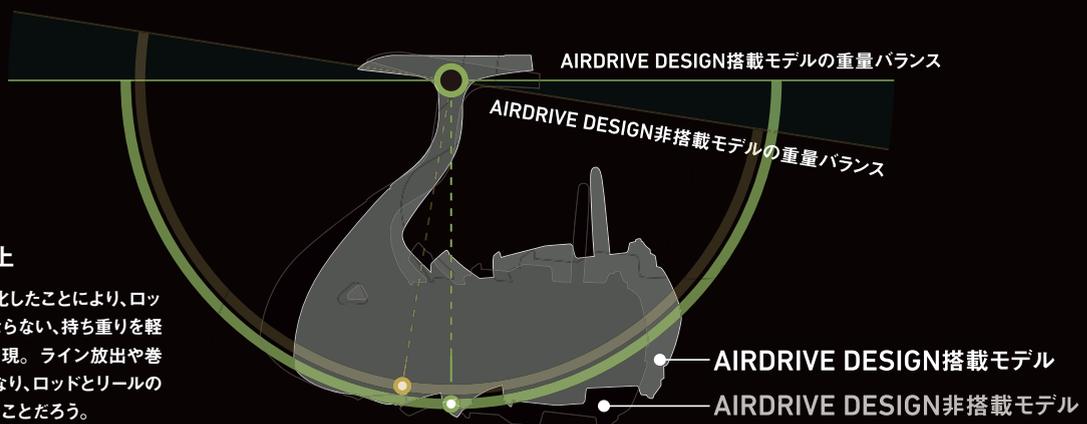
エアドライブデザインは、釣り人が求める、意のままにルアーを操作することを追求した次世代スピニングリールの設計思想。

それはスピニングリールのフロントユニットに関わる4つの要素から構成される。巻き出しが軽く、ハイレスポンスな回転を生み出す、エアドライブローターの搭載を必要条件とし、それを下支えする軽量でトラブルレスなエアドライブベール、綿密な強度設計のもと、軽量化を突き詰めたエアドライブスプール、回転ノイズの極めて少ない、軽くて滑らかな巻き上げを可能にしたエアドライブシャフト。これらの相乗効果で、高次元の操作性を実現する。

まずはリーリング性能。軽い力で滑らかに回り出し、止めたいところでピタッと止められる。すなわち、ルアーを正確に操作でき

る。回し続けたときの疲労感も小さい。そして、感度。軽い力で回るということは、水中のほんの少しの抵抗でも回転に変化が生まれる。ハンドルを巻く手には、それがより鮮明に伝わる。これらはフロントユニットの軽量化で巻き出しが軽くなったことによる恩恵だ。同時にフロントユニットの軽量化は、持ち重りの改善にも寄与し、ロッドの操作性を向上させた。ロッド装着時に頭下がりになれば、自ずとグリップを握る手に余分な力が入り、僅かなブレとなって竿先に現れるが、その心配がない。エアドライブデザインは、自在なロッドアクションや高精度なキャストビリティも可能にするのだ。

ダイワスピニングリールの新しい未来を、ぜひ体感してほしい。



重量バランスの向上

フロントユニットを軽量化したことにより、ロッド装着時に頭下がりにならない、持ち重りを軽減した重量バランスを実現。ライン放出や巻き取りもよりスムーズになり、ロッドとリールの一体感を存分に味わえることだろう。



ダイワ史上、かつてない低慣性ローター。

スッと巻けて、ピタッと止められる。

自らの思い描くタイミングでリールのハンドルを巻く、止める。

ローターの低慣性化によるかつてない軽い巻き心地。

エアドライブローターは、ルアーフィッシングシーンを一変させる。

スピニングリールのハンドルを回すと、精密な内部構造が次々と作動し、最後、ローターが回転してラインを巻き取っていく。このローターについて、ダイワは、軽量であるほどメリットが多いと考える。ローターを回転させるときに働く慣性力は、ローターの自重が軽量であるほど小さくなるからだ。

身近なものに置き換えて考えてみよう。例えば車だ。車重の軽い車ほど、止まった状態から軽い力で瞬時に加速し、ブレーキング時には短い制動距離で停止できるだろう。ローターも同様だ。重量が軽ければ巻き出しが軽く、止めたいときに止めたいところでピタッと止まる。つまりアングラーが意のままに操れるというわけなのだ。

一方、軽いものは、どんなものであれ、強度や耐久性に不安があるとされる。メリットを活かすためにデメリットを受け入れざるを得ないのか。そうではない。ダイワが目指すべきは「軽くて強い」という二律背反の実現だ。そして、その結実が、エアドライブローターなのである。独自理論により、回転体として理想的な球体形状を導き出し、さらに高精度の剛性解析により、従来と同等の剛性を維持しつつ、大幅な軽量化、低慣性化を実現した。その機能性は、外観からも見て取れるだろう。ビスのない美しい曲面は、ローターへの糸絡みを抑制する二次的効果ももたせている。

ぜひハンドルをゆっくりと回していただきたい。静かに滑り出し、どこまでもスムーズに、上質な回転をその手に伝え続けてくれるはずだ。

[ローターユニット重量比較]



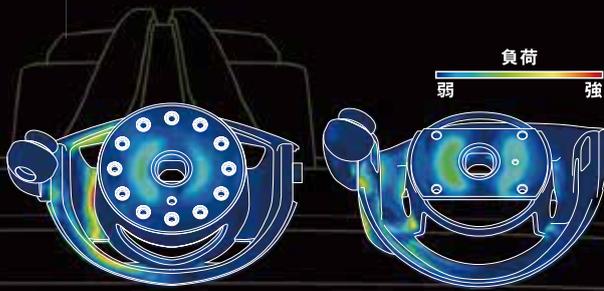
[ローターユニット慣性比較]



重量比較、慣性比較

2500番サイズで比較すると、23AIRITY搭載のエアドライブローターは、ローターユニットで約16%の軽量化に成功*1。ダイワスピニングリール史上、未踏の領域へと突入したのである。それとともに慣性力も最大約16%軽減*2。操作性や回転性の大幅な向上も図られている。

*1軽量化の比較値はサイズにより異なります。*2慣性力の算出値はサイズによって異なり、2500番で最大化。

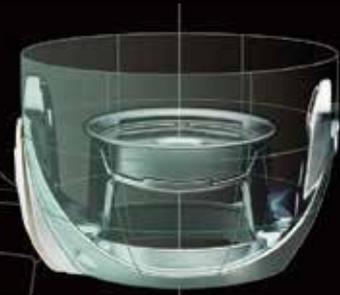


従来のローター
(LUVIAS AIRITY)

エアドライブローター
(AIRITY)

強度シミュレーション

赤くなるほど負荷が集中していることを示す。エアドライブローターの「軽くて強い」秘密は、綿密な高精度解析によって、負荷が集中するところは補強する一方、負荷の少ないところは肉抜きをすることで最適化を実現。これにより、従来のローターと同等の剛性を維持しながら、軽量化に成功した。



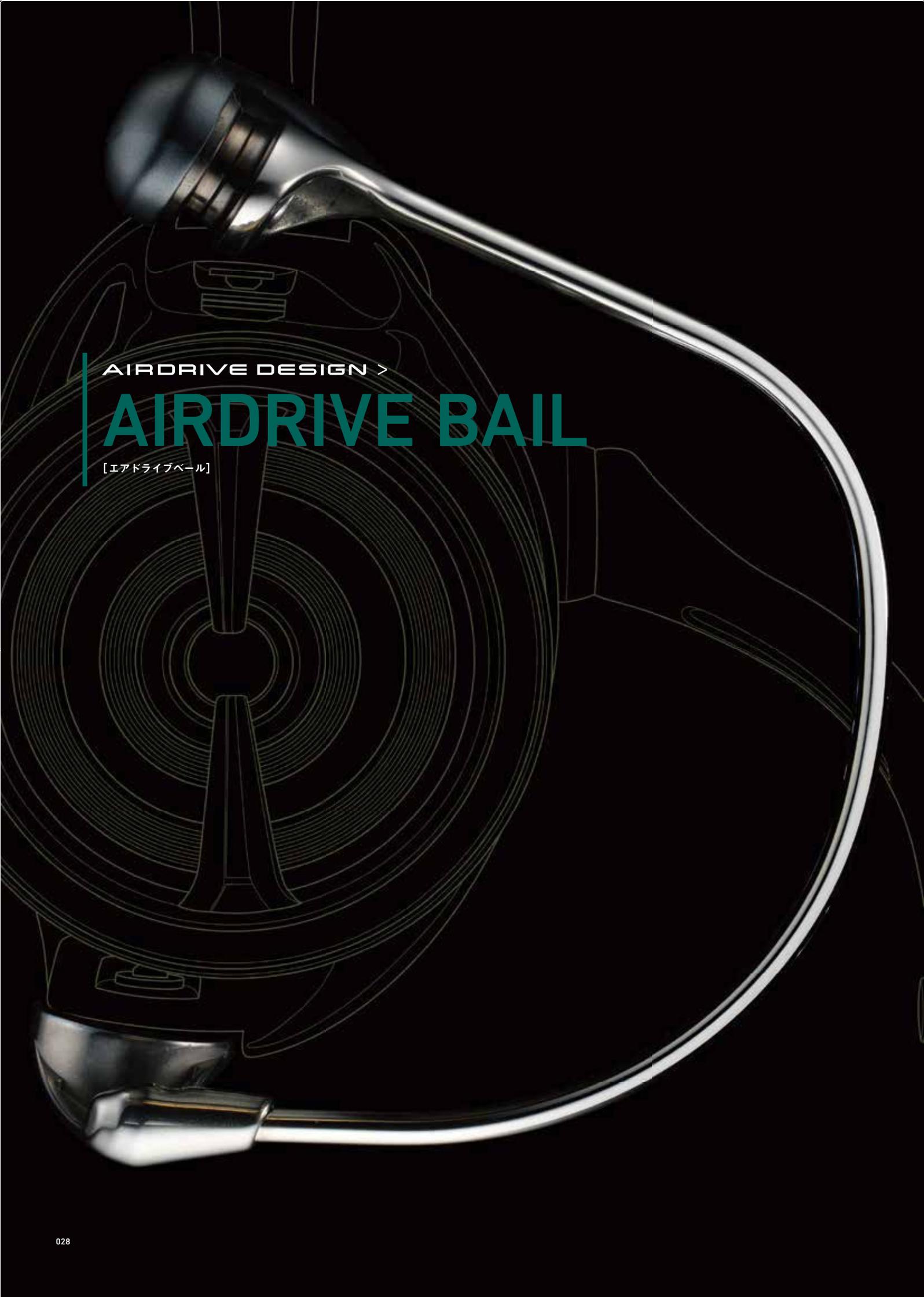
回転体として理想の球体形状

中心軸から両ベールアームへと、左右対称に円弧を描いて伸びていく、球体から切り出したかのようなアーチデザインに注目していただきたい。これによりバランスのいい、滑らかな回転が得られるのである。

AIRDRIVE DESIGN >

AIRDRIVE ROTOR

[エアドライブローター]



AIRDRIVE DESIGN >

AIRDRIVE BAIL

[エアドライブベール]

軽快な回転フィールと ストレスフリーな使い心地を。

数十年以上も前に生まれた技術が脈々と受け継がれ、今なお最先端であり続ける。

ダイワにはそんなテクノロジーがいくつかある。

送り出す釣り具は革新と継承の、積み重なる歴史の結晶だ。

エアドライブベールも、そのひとつである。

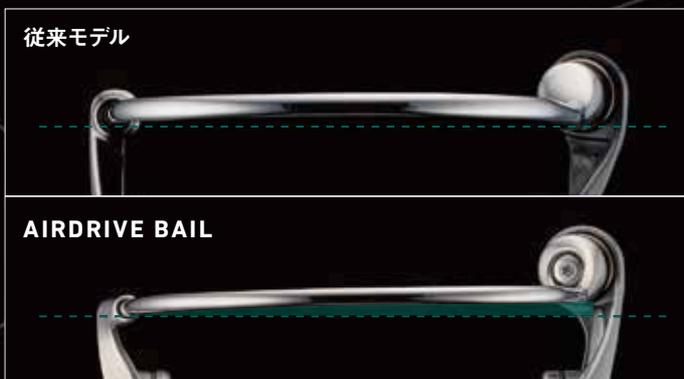
ダイワのスピニングリールのベールは、中空パイプ構造を採用している。このベールは長年にわたり、ダイワのスピニングリールに搭載されているテクノロジーで、エアベールと名付けられている。もちろん、中空パイプ構造であるのには理由がある。中身の詰まった、いわゆる中実構造と比べると、明らかに軽量で、かつ曲げやねじれに対して強く設計できるからだ。加えて、ベールとラインローラーを繋ぐラインスライダも、ラインがスムーズに誘導され、トラブルレスな巻き出しを可能にする独自形状が採用されている。

そして、このエアベールの進化版がエアドライブベールである。

エアドライブデザインによって一新されたローターユニットのさらなる低慣性化のためには、ベールの軽量化は至上命題のひとつだった。

ダイワは、そこにメスを入れた。必要強度を維持しながらも小径化かつ新構造化することで、ベール単体で約33%の軽量化を達成したのだ。それだけではない。ラインがラインローラーへと、よりスムーズに移行できるよう、ベールの角度に傾斜セッティングを施すことで、ライントラブルのさらなる低頻度化も実現したのである。

エアドライブベールは、数十年にわたって積み重ねられてきた技術の結晶といえるだろう。



傾斜したセッティング

ベールにわずかながら傾斜角をつけることにより、現代のアングラのラインセッティングに、ストレスをもたらさない糸拾い性能(糸がベールを伝ってラインローラーにオートマッチックにセットされる性能)を実現。ラインローラーへとよりスムーズに糸を導きやすくなった。



ベール径をφ2.4へ変更

ベールは、ラインローラー部を構造変更するとともに、ベール径をφ3からφ2.4へと小径化したことで、約33%の重量減(2500番比較)。軽量性と必要強度をバランスよく満たす最適な径を導き出した。

磨き抜かれたスプールとしての「機能」と「美」。

スピニングリールを象徴するパーツのひとつ、スプール。
リールの「顔」としてそのデザイン性が求められる一方、
リールの重量バランスや回転性能も左右する重要パーツでもあるのだ。

スピニングリールの外観において、スプールは「顔」というべき、重要な存在だ。それゆえ、色彩や形状、質感を吟味し、そのリールにふさわしい世界観を、スプールに表現する必要がある。それは作り手の独りよがりであってはならない。使えば使うほどに愛着が増していく美しさでなければならない。

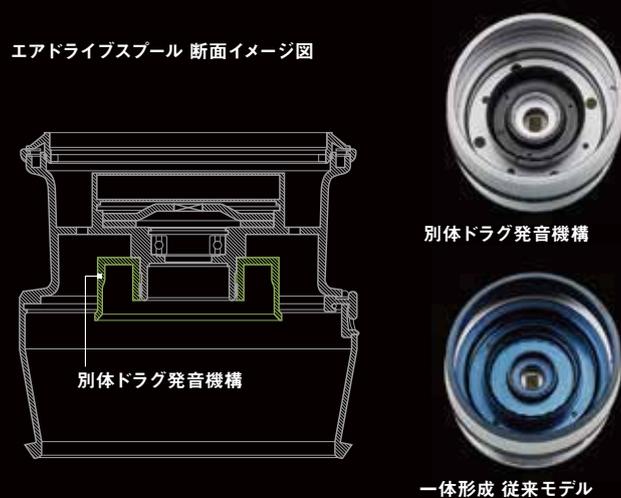
その美しさを表面的なもので終わらせないために、本質としての機能を磨き上げたのが、エアドライブスプールである。まず取り組んだのは、軽量化だ。綿密な強度設計のもと、不要な肉を徹底的にそぎ落とした。スプールの軽量化は、リールの自重そのものと同時に、フロントユニットの軽量化にもつながり、持ち重りも軽減される。また、ハンドル回転に連動して上下ストロークする際に、スプールの自重が軽ければ、動き出しも軽くなり、巻

き始めの軽快さやレスポンスの向上にもつながる。つまり、エアドライブデザインの設計思想を実現するうえで、スプールの軽量化は避けては通れない課題だったのである。

加えて、エアドライブスプールでは新開発のドラッグ発音機構を搭載した。スプール本体と別体構造にすることで軽量化を図るとともに、ドラッグの動作を妨げにくい、摩擦抵抗の少ない構造に変更。なおかつドラッグ音そのものも感性に訴える音質にチューニングするなど、情緒的な価値も大切にしたい。

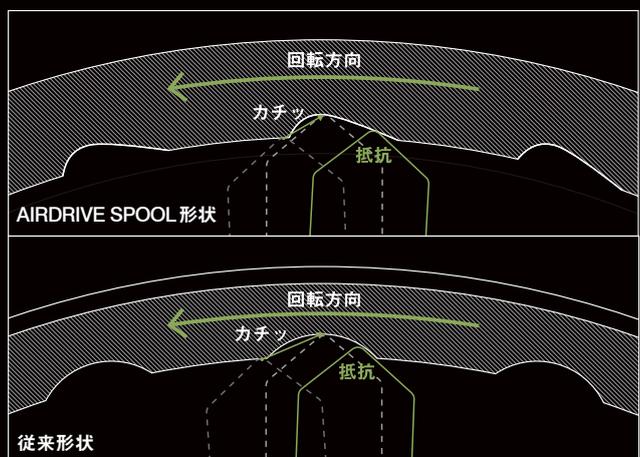
アングラーと心を通わせることができるリールであるために、ダイワが理想とする「機能」と「美」を追い求めたのが、このエアドライブスプールである。

エアドライブスプール 断面イメージ図



細密な強度設計に基づく徹底的な薄肉化

綿密な強度設計に基づき、徹底的に薄肉化することで、強度を維持したまま、軽量化を実現。さらに、従来のスプールでは一体形成だったドラッグ発音機構を、エアドライブスプールでは独自素材を用いた別体構造にすることで、さらに軽量化を突き詰めた。



ドラッグ発音機構断面イメージ図

ドラッグ音は、ラインが引き出されスプールが回転する際に、金属製の突起がドラッグ発音用の溝と接触して発生する。この溝を非対称形にすることで、ラインが引き出される回転方向のみ摩擦を小さくし、心地よいドラッグ音を発しながらドラッグがより滑らかに動作するようにした。



AIRDRIVE DESIGN >

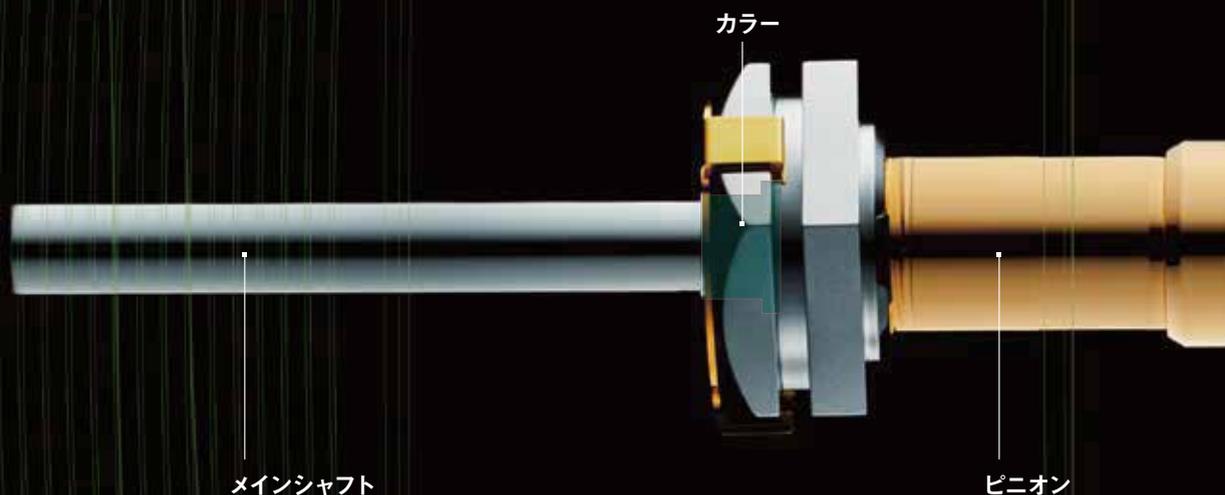
AIRDRIVE SPOOL

[エアドライブスプール]

AIRDRIVE DESIGN >

AIRDRIVE SHAFT

[エアドライブシャフト]



滑らかで静粛。次世代の回転フィール。

ハンドルを巻く手に込めた力を、そしてアングラーの想いを、
いささかも無駄にせずラインの先の先まで伝えるために。
エアドライブシャフトはリールの内部で静かに、滑らかに動き続ける。

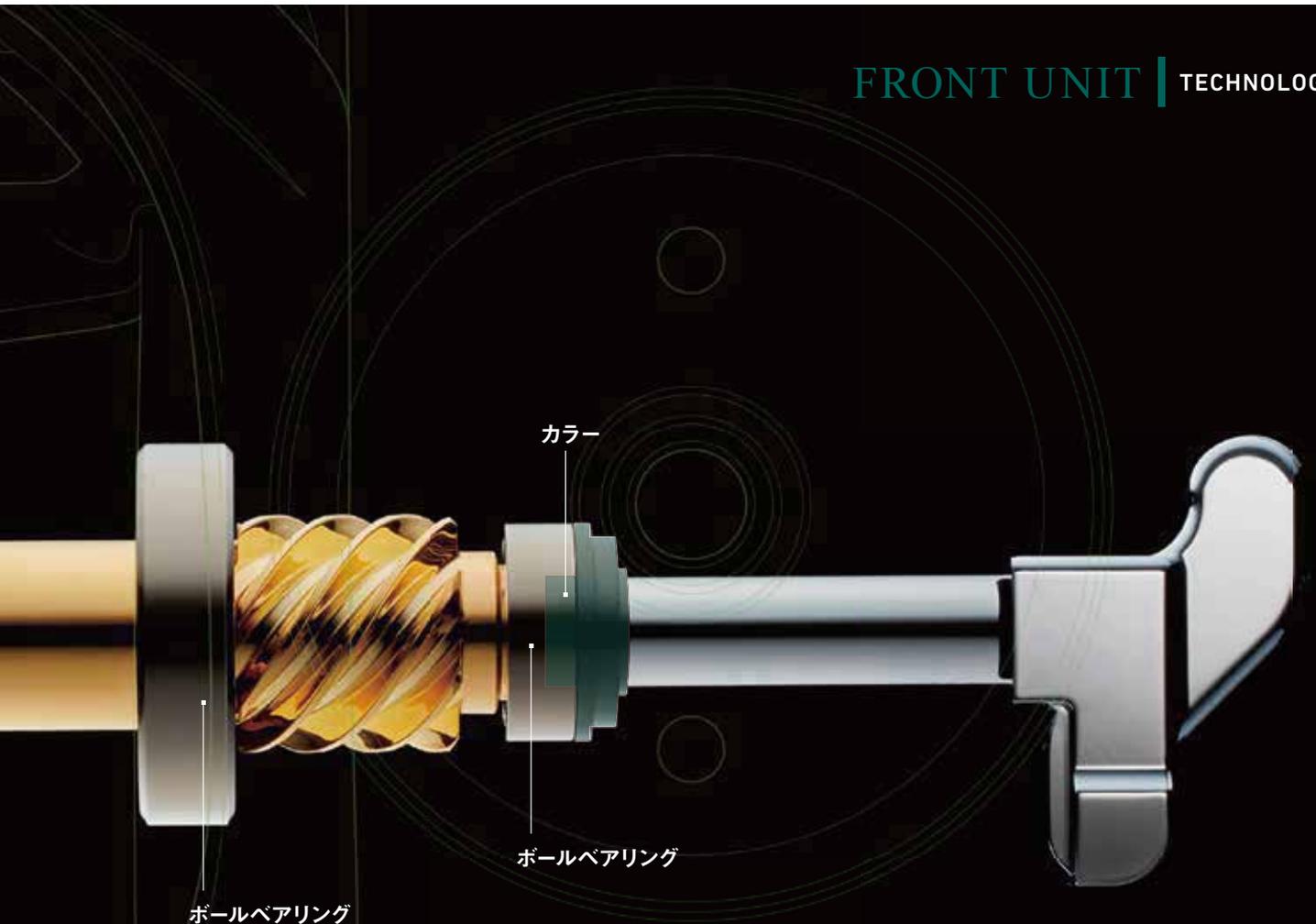
スピニングリールの場合、ハンドルを回す縦の回転は、ローターの横回転へと変換される。これを担うのがピニオンだ。同時にラインをスプールに均等に巻き取るために、スプールは上下動する。これを司るのはピニオン内を貫くようにセットされるメインシャフトだ。この複雑なメカニズムを、いかにパワーロスなく動作させるかで、スピニングリールの回転性能は違ってくる。

そのために現在のダイブスピニングリールには、リニアシャフトというテクノロジーが搭載されている。従来はメインシャフトをピニオンの内径で直接、支持する構造だったが、このリニアシャフトは、メインシャフトをカラーで支持し、ピニオンと非接触にすることで摩擦抵抗を軽減。高負荷時でもパワフルな巻き

上げを実現している。そのリニアシャフトの優れた構造を継承しつつ、さらに進化したのが、エアドライブシャフトなのである。

エアドライブシャフトでは、同じくメインシャフトとピニオンは非接触だが、メインシャフトを支持するカラーをより高精度化することで、従来以上に回転ノイズが排除され、滑らかで静粛な巻き心地を実現している。これに加えてピニオンの両端をボールベアリングで支持することで、ハンドルから入力されたパワーをより効率的に、ローターの回転力へと繋げ、力強い巻き上げを可能とした。

巻き心地は、静粛で上質。なのにパワフル。エアドライブシャフトは、リールの内部で、その役割を密かに担っている。



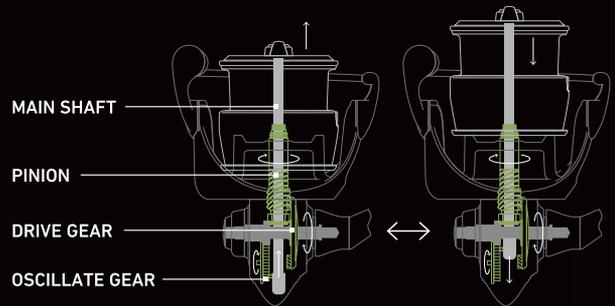
ボールベアリング

カラー

ボールベアリング

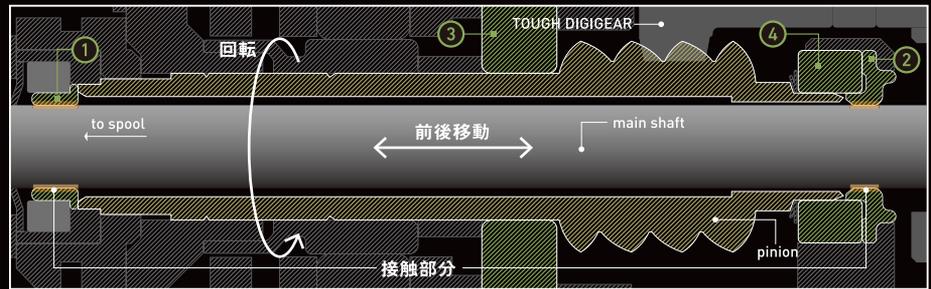
スピニングリールにおける
ギア伝達の仕組み

ハンドルを回すとドライブギアが回転し、メインシャフト上にあるピニオンはドライブギアと直交する方向に回転。ピニオンと同調してローターが回転する。同時にオシレートギアが回転し、メインシャフトを上下動させる。



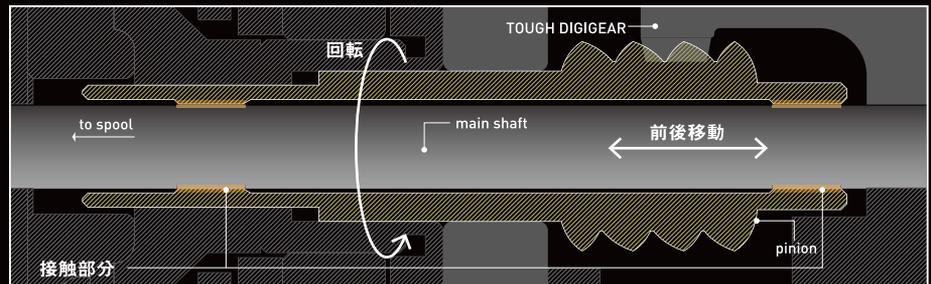
エアドライブシャフト搭載モデル

メインシャフトをカラー (①、②) で支持し、ピニオンと非接触にすることで、摩擦抵抗をゼロに。この構造自体は、従来のリニアシャフトと同様だが、エアドライブシャフトでは、そのカラーをより高精度化。これにより、滑らかで静寂な回転性能を実現するとともに、ピニオンの両端をボールベアリング (③、④) で支持。これにより、パワフルな巻き取り性能を可能にした。



リニアシャフト/
エアドライブシャフト非搭載モデル

リニアシャフト、エアドライブシャフトのいずれも非搭載のものは、ピニオンギアの内径で直接、メインシャフトを支持しているため、摩擦抵抗が発生し、とくに高負荷時のリーリングにおいてはパワーロスが発生してしまう。

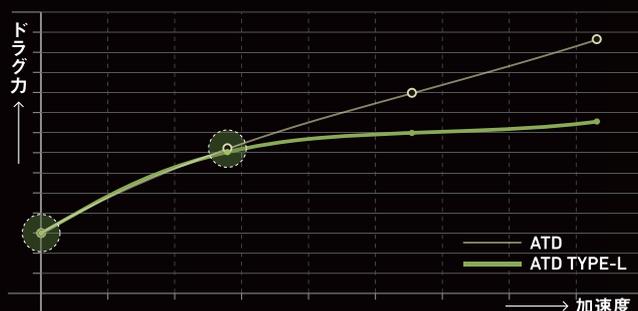


| ATD TYPE-L

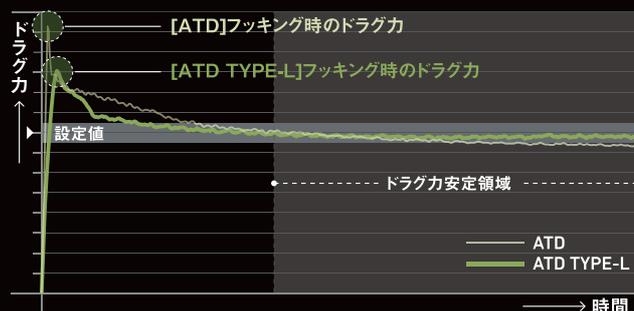
「追従力」が違う。

魚の引きに合わせて、滑らかに効き続けるATDの特性そのままに、スピニングリールにおけるドラッグの初動レスポンスをさらに向上させたのがATD TYPE-L。とりわけライトライン使用時に求められる、よりスムーズな使用感にこだわったチューニングを施し、ラインへの負荷をさらに低減するとともに、魚に過度なストレスを与えず、短時間でのランディングを可能とした。

[加速度とドラッグ力の関係]



[ドラッグ曲線比較]



ATDと比較すると、全体的な特性は似ているが、TYPE-Lはフッキング時など、瞬発的に引っ張られたときのドラッグ値の上昇を抑えた設定を施している。これにより、現代の釣り方やタックル設定に、よりフィットし、ライトライン使用時に瞬発的な魚の走りによるラインブレイクを減少させる。



| TWIST BUSTER III

糸ヨレ防止機構が進化。

ライントラブルの大きな原因である糸ヨレを解消するための機構がツイストバスター。23AIRITYでは、ツイストバスターⅡがさらに進化した、ツイストバスターⅢを搭載。ラインローラー部に新たな溝を設けることで、ラインローラーを通過する糸のバタつきを抑制。また、ラインローラー部にもマグシールドを搭載。塩噛みや固着の影響を受けず、長期間、安定的かつ確実な回転性能を実現した。



| Long Cast-ABS

ラインとスプールエッジの摩擦を徹底的に軽減。

キャスト時において、ラインがスプールエッジと接触することで起こる摩擦を徹底的に軽減。スムーズなライン放出を工学的に突き詰めた2段形状のスプールエッジ。ロングキャスト実現のため、最大の糸巻き量でベストな設計となっている。非搭載モデル比で飛距離約5%アップ。





BODY UNIT

TECHNOLOGY

強さのために

フルメタル・モノコックボディだから両立できた

モノコックボディはAIRITYの確かな骨格。

素材にマグネシウム (Mg) を採用するとともに、

アルミ (Al) 製のエンジンプレートで蓋をした。

つまりは、すべてメタル。

その安心感は、ローター部に組み込まれたマグシールドで、より確かなものとなる。

実釣強度をとまなわない軽さには、意味がない——。

リール設計に対するダイワの信念が、AIRITYには込められている。

MONOCOQUE BODY MQ

[モノコックボディ]

18EXIST



ENGINE PLATE

DRIVE GEAR

モノコックボディ

モノコックボディは、それ自体が巨大なビスの役目も担うエンジンプレートでカバーをされていて、大きな負荷を受けてもズレにくく、たわみにくい構造になっている。また、ビス穴を必要としない分、従来構造よりもボディ内部のスペースが飛躍的に広くなり、より強力な、大径サイズのドライブギアが搭載可能だ。

「強さ」と「軽さ」という、相反する効能の両立。

モノコックボディは、とてつもなくタフなボディ。内包するギアをがっしりと支え、たわみにくく、安定した回転を生み出す源だ。どこまでも強く。いつまでも滑らか。すべてが未来の巻き心地。

従来からあるスピニングリールのボディは、ボディとボディカバーの2つのメインパーツで構成され、それを小さなビスなどで留め合わせる構造となっている。素材や製造技術の進化により、現在のリールは昔とは比較にならないほど性能や精度も大きく向上しているが、あくまで2つのパーツを留め合わせるという基本構造そのものは変わっていない。

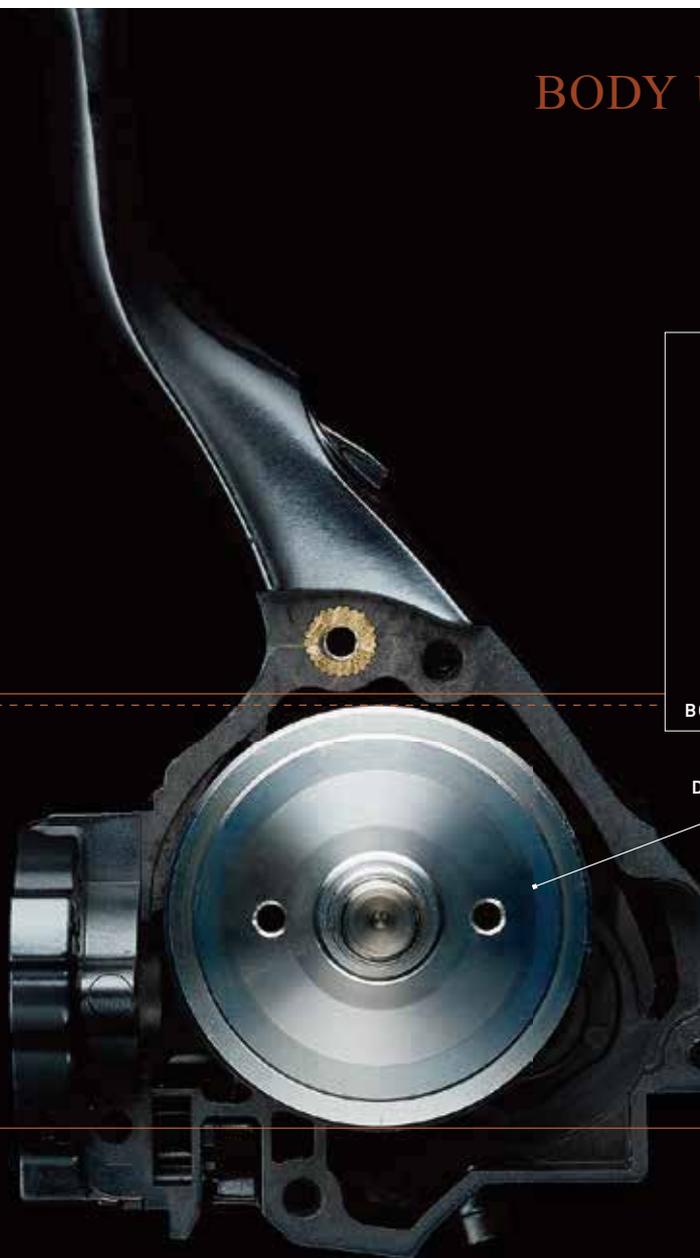
この構造は、大きな負荷が掛かれれば、目には見えないくらいのレベルだとはいえ、確実にパーツの合わせ目にはたわみが生じる。その結果、内部のギアの噛み合わせなどに悪い影響を及ぼすことは否めない。いかに強いギアを搭載しようが、噛み合わせがたわんでしまえば、十分にパワーを伝達できなかった

り、たわんだまま回転したりすることでギアの損耗に繋がるなど、せっかくの実力を十分に発揮させることができなくなってしまうのだ。また、たわんだ隙間から水が浸入すれば、内部構造へのダメージにも繋がる。

その問題を克服したのが、モノコックボディである。従来は2つの部品によって構成されていたボディを、ワンピース、つまり一体成型で作り上げ、大口径高精度のエンジンプレートを直接ねじ込んで蓋をしている。

ワンピースという言葉だけでも直感的に理解できるはず。強さ、たわみにくさは段違い。それをエンジンプレートという、いわば従来よりもケタ違いに大きく強い「ビス」で直接蓋をしている

15EXIST



BODY COVER

DRIVE GEAR

従来構造

3～4点のビスでボディにボディカバーを留める構造。ボディをたわませる力が掛った場合は、この細いビスを中心に受けることになるため、大きな負荷がかかるとボディとボディカバーにたわみが生じやすい。また、ビス穴の分、内部スペースが狭くなり、内蔵できるドライブギアのサイズもおおのずと小さくなる。

ようなものだ。強い土台に支持された内部の機構は、当然、がちりと噛み合い、ガタつかずに、持てる力を十全に発揮する。合わせ目のたわみも、従来方式とは比較にならないといっているほどで、内部の防水性も極めて高い状態に保たれる。

また、従来方式は、ボディをビス留めして組み合わせるため、ボディの内壁にビス穴が必要だった。そのビス穴が内部スペースを圧迫するため、積めるギアサイズには限界があった。一方、一体成型のモノコックボディにはビス穴が存在しない。これにより広い内部スペースが確保でき、ボディサイズが同じでも、より大きなドライブギアの収納が可能となったのだ。

翻っていえば、ギアサイズが同じでも、よりコンパクトなボディで包み込むことができるということだ。これによって得られるメリットは「軽さ」となる。

リールにおいて、軽さがもたらすメリットは計り知れない。「キャスト時の振り抜きが速くなる」「自在なロッド操作が可能となる」「感度が向上する」「疲労感が軽減される」など実に様々だ。

そして、いざハンドルを回せば、パワフルでトルクフルな巻き心地をその手に伝えてくれるはずだ。「軽さ」と「強さ」という、

相反する効能の両立。それこそがモノコックボディの真骨頂なのだが、そこにはさらに秘められたポテンシャルがある。

強度がアップしているということは、ターゲットによっては、従来よりひとつ下の番手でも、強度的に十分に足りる場合があるということだ。番手がひとつ小さくなれば、当然、劇的に軽くなる。軽量化をとことん追求したければ、そんな選択肢もある。

逆もまた然り。今までのリールの重量に不満がないのであれば、あえてひとつ大きい番手を使って、さらなるパワーを得るという選択肢もある。つまり、リールを選ぶ際、「強さ」を基準にするなら「軽さ」を得られるし、「重さ」を基準にするなら「強さ」が得られるのだ。

アングラーの技量やタックルバランスなどが介在してくるので、一概には言えないが、ジャンルによっては、これまでの標準的なタックルセッティングを一変させてしまうほどの可能性を、モノコックボディは秘めている。

同じ強さなら軽く。同じ重さなら強く。

モノコックボディは、単なるデザインチェンジではない。スピニングリール史に残るパラダイムシフトといっても過言ではないほどの機能進化を堪能してほしい。



FULL METAL BODY

[フルメタルボディ]

すべてが金属、だからこそ強い。

モノコックボディも金属。エンジンプレートも金属。
フルメタルボディの強さは、揺るがない。

AIRITYのモノコックボディでは、高剛性の金属「マグネシウム合金 (Mg)」を採用している。ダイワがMgをリールのボディ素材として初めて実用化したのは、70年代。その後も研究・開発を続け、2000年にはMgボディ採用のチームダイワ-Zがバス用リールとして発売。そして2002年秋には、Mgの腐食への弱さを表面処理技術の向上で克服し、業界史上初となる海水対応Mgボディ搭載モデルを発売した。それこそがAIRITYシ

リーズの原点、TOURNAMENT AIRITYである。

今回のAIRITYでは、モノコックボディの蓋となるエンジンプレートも、金属の「アルミ」製。つまりすべてが金属で構成されているフルメタルボディというわけだ。

強いギアを強いボディで守る。だからこそAIRITYは、滑らかで安定した回転が永く続くのだ。

精緻な噛み合いが力を生み出す。

パワーがあること。滑らかな巻き心地であること。
そして丈夫で長持ちするギアであること。だからタフデジギア。

リールの中でもっとも重要なパーツであるドライブギアには、三位一体のエLEMENT(設計思想・加工技術・ギア素材)が不可欠となる。

23AIRITYに搭載されるのは、超々ジュラルミン製MC(マシンカット) タフデジギア。冷間鍛造で高強度に仕上げた素材に、さらにもうひと手間、デジタル解析によって導き出された理想的な歯面

に仕上げるために高精度なマシンカットを施しているのだ。

また、ドライブギアに特殊表面処理を行うことで、高負荷が掛かることによって引き起こされるギアへのダメージを低減。さらに大型サイズのPC LT3000、LT4000、LT5000D-CのXHギアモデルには、ソルティガ等で実績のある高強度ピニオンを新たに採用し、万全を期した。

TOUGH DIGIGEAR

[タフデジギア]



鉄壁の防水・耐久力。

防水の要となる箇所に、磁性流体を用いた機構をセットし、まさに水と油、浸入する水や砂塵を、強力にはじき返すのがマグシールド。鉄壁の防水・耐久力は、ダイワだけの持つ唯一無二のテクノロジーだ。

リールの防水・耐久テクノロジー、マグシールド。マグシールドとは、磁性を持ったオイル（マグオイル）を、回転に関わる箇所に配置することによって、内部への水の浸入を防ぐという、ダイワ独自の機構である。

従来、回転箇所の防水には、パッキン、Oリングといったゴムパーツを使用していた。だが、回転部にゴムを密着させるということは、摩擦抵抗が生まれ、回転性能の低下に繋がる。加えて、ゴムが変形、摩耗すれば、そこから水が漏れ入ってしまう。それを

解消しようと思われたのがマグシールド。オイルだから、当然、隙間なく密封して水や塩の浸入を防ぎ、また、摩擦抵抗がないため、滑らかに軽快な回転性能が永く続くのだ。

23AIRITYにおいて、マグシールドは、①メインシャフト付け根の、ボディとの接触点（ピニオン部）、②ラインローラー部という、回転に関わる重要箇所に配置される。継ぎ目がなく水や塩の浸入経路のないモノコックボディとの相乗効果により、23AIRITYのボディ内部はハイレベルの防水防塵状態に保たれている。

MAGSEALED

[マグシールド]

MAGSEALED

MAGSEALED

メインシャフトの付け根にあるマグシールドキャップとクラッチリング。パーツは非接触で、この1mmもないわずかな隙間にマグオイルが充填される。ボディ内部の防水防塵と回転の軽さを実現。



MAGSEALED LINE ROLLER

水の影響を非常に受けやすいラインローラー部にはマグシールドを採用。固着せず、確実に、永く動作し、糸ヨレによるライントラブルを大幅に低減する。

MAGSEALED



23AIRITY LINEUP & SPEC

品名	巻取り長さ (cm/ハンドル1回転)	ギア比	自重(g)	最大ドラッグ力(kg)	標準巻糸量 ナイロン(lb-m)
LT2000S-P	64	4.9	145	5.0	3-150 0.4-200
LT2000S-H	76	5.8	145	5.0	3-150 0.4-200
LT2500S	72	5.1	150	5.0	4-150 0.6-200
LT2500S-XH	87	6.2	150	5.0	4-150 0.6-200
LT2500S-DH	72	5.1	165	5.0	4-150 0.6-200
PC LT2500	73	5.2	165	10.0	6-150 0.8-200
PC LT2500-H	80	5.7	165	10.0	6-150 0.8-200
LT3000-H	85	5.7	175	10.0	8-150 1-200
PC LT3000	77	5.2	185	10.0	8-150 1-200
PC LT3000-XH	93	6.2	185	10.0	8-150 1-200
LT4000-XH	99	6.2	200	10.0	12-150 1.5-200
LT5000D-CXH	105	6.2	205	10.0	25-150 2.5-300



LT2500S



FRONT



REAR

スプール径 (mm)	ハンドル長さ (mm)	ハンドルノブ仕様	ベアリング (ボール/ローラー)	メーカー希望 本体価格(円)	JANコード
42	40	HGI型	11/1	63,500	4550133110566*
42	45	HGI型	11/1	63,500	4550133110573*
45	50	HGI型	11/1	64,000	4550133110580*
45	50	HGI型	11/1	64,000	4550133110603*
45	90	HGI型	13/1	66,000	4550133110597*
45	50	HGI型	11/1	64,500	4550133110610*
45	55	HGI型	11/1	64,500	4550133328367*
48	55	HGI型	11/1	65,000	4550133328374*
48	60	HGI型	11/1	65,500	4550133110641*
48	60	HGI型	11/1	65,500	4550133259234*
51	60	HGTラージ	11/1	66,000	4550133259241*
54	60	EVAラウンドライトノブ	11/1	68,000	4550133259258*

AIRITY



